

終戦70年記念事業 「戦中・戦後の体験談」・「資料展」盛大に

共催 若槻地区住民自治協議会 若槻郷土史研究会

8月9日(日)、檀田地区センターで「戦中・戦後の体験談」・「資料展」を開催しました。信濃毎日新聞、市民新聞の取材やテレビ局のカメラも入るなど、皆さんの関心も高く、他地区からの参加も含め200人余りの来場がありました。

壇上に並んだ8名の戦争体験者に金子郷土史研究会会長が質問をする形式で発表をしてもらいました。

ソ連参戦での逃避行、シベリア抑留、作戦変更で命拾い等々の戦争にまつわる話、子育て中だった女性に「食べ物の苦労は」と質問したら「蚕さんが桑の葉を美味しそうに食べるので、口に入れてみたが、まずかった」とのユニークな答えが返る(一同爆笑)など、様々な体験が聞けました。

体験談の様子はDVDに納めました。視聴をご希望の方は、コミわか事務局にご相談下さい。



出征する兵士に送った「日の丸(寄せ書き)」、虎の刺繍が施された腹巻(「千人針」)(写真)から、当時の教科書、地図、新聞記事(切り抜き)、戦地からの軍事郵便、写真、軍服・靴、紙幣/貨幣、勲章等々、100点を超えるバラエティに富んだ出品があり、皆、熱心にご覧になっていました。貴重な品々をご出展頂いた方々に、感謝申し上げます。



◀寄せ書き入りの「日の丸」



▲虎の腹巻(「千人針」) 赤い糸で縫ったものですが、不鮮明なので、虎の輪郭を枠で示しました。

第2回自然観察会 “森の生きものを見つけ隊”を 行いました



このケヤキのように母と子そろって元気でいられますように。母子ケヤキの前で

7月25日(土)に昭和の森公園において、第2回自然観察会“森の生きものを見つけ隊!!”が開催されました。

講師に内田和男先生をお迎えし、ご家族連れ等20名程の参加者とともに昭和の森にすむ生き物を探しながら自然探索路を周遊しました。

森の中には、綺麗な模様のチョウや、木の幹の樹液に集まる昆虫たちがたくさんいました。子どもたちは虫とり網で一生懸命虫を追いかけたり、捕まえた虫と図鑑を見比べながらこれは何だろうと観察したりしました。カナブン、カマキリ、カネチョロ、オニヤンマ、ホタルなど様々な生き物を見つけることができ、子供たちも「いっぱい虫がとれて楽しかった。」と言っていました。捕まえた虫たちは最後に森に帰してあげましたよ。

内田先生によりますと昭和の森には、50種以上のチョウがいるそうです。森にはまだまだたくさんの発見があります。自然とたくさんふれあいながら楽しい時間をご家族と過ごすのはいかがですか？

(自然環境部会)



この虫、なんて言うの？
どれどれ図鑑で見てみよう！

防災研修会を開催しました

7月26日(日)、コミュニティセンターにおいて若槻地区防災研修会を実施しました。前半は、信大の太塚勉教授による出前講座「信州の地質の特性と災害」を聴講しました。実際に起きた地震、また長野市や若槻地区の地質・災害について分かりやすく解説いただきました。私たちの住んでいる地域の様々なデータを確認し、複合的な観点で災害対応力の強化に取り組んでいきたいと感じました。

次に、学校の体育館が避難所になったことを想定し、その運営を図面上で模擬体験し課題を話しあいました。実際の開設時には混乱も想定されますが、地域としてできる運営支援や対策を検討していきたいと思ひます。



避難所模擬体験

災害時の情報伝達訓練を実施しました

7月26日(日)、防災研修会に先立ち、各自主防災会と若槻地区災害対策本部との情報伝達訓練を実施しました。

災害時に、電話回線が不通となった状況を想定し、無線機を使って本部と各区との連絡をとりあいました。しかし、充分な通信ができなかった区もあり、さらに検証を重ね、よりよい運用方法を検討していきたいと思ひます。